

静岡市将来人口の独自推計の方法

静岡市では、急激に減少する人口問題と向き合うため、国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）の推計に依存しない独自の手法で将来人口を推計している。

1 推計の特徴

社人研の推計は、5年ごとに行われる国勢調査のデータを基にしており、直近の実態が推計に反映されにくい。一方、静岡市の推計では、日々更新される住民基本台帳のデータを活用することで、より最新の人口動向が反映されている。

2 使用するデータ

2014年9月末～2024年6月末（直近10年間）の住民基本台帳人口データ（外国人人口を含む）を、四半期ごと（3月末・6月末・9月末・12月末）に集計した、男女別・1歳階級のデータを使用する。

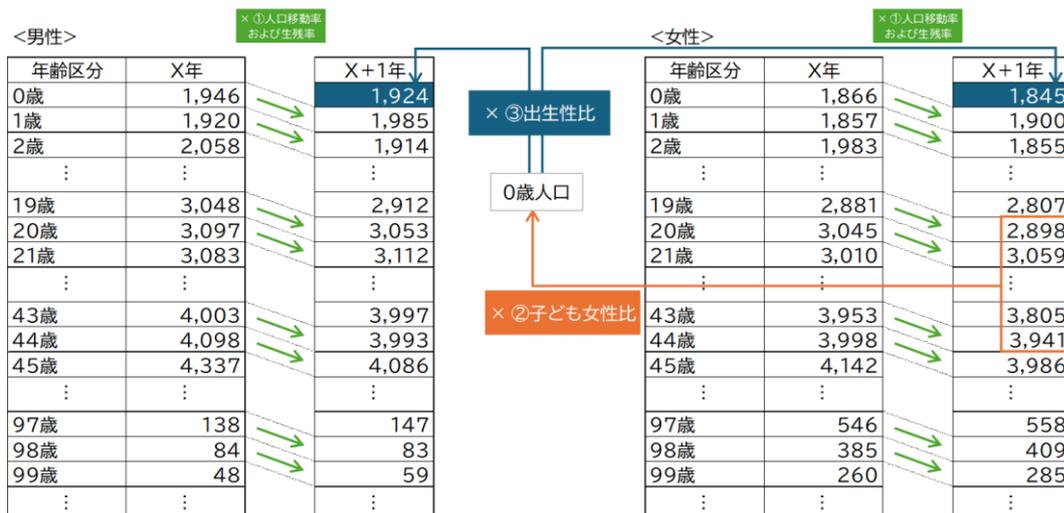
3 推計の方法

- ◆ 年齢別人口の加齢に伴って変化する際の要因を、人口移動・死亡、出生ごとに計算する「コーホート要因法」により推計している。
- ◆ 「オクシズ」と「オクシズ以外」のエリアでは、人口移動率や年齢構成比などに差異があり、実情に即していない推計値が算出されてしまうため、両者を分けて推計を実施している。

4 計算の手順

- ① 1歳以上人口：各年齢層の人口に「人口移動率および生残率^{※1}」を乗じる。
- ② 0歳人口（総数）：「子ども女性比^{※2}」の仮定値を①で算出した20～44歳女性の推計人口に乗じる。
- ③ 0歳人口（男女別）：②の0歳人口に「出生性比^{※3}」の仮定値を乗じる。
- ④ 小学校区別人口：③の結果に、2024年6月末時点の小学校区ごとの年齢構成比を乗じる。

<①～③の計算イメージ>



<各指標の定義と仮定>

※1 人口移動率および生残率

- ① 指標定義：1歳階級ごとの「転入超過数（1年間の転入数－転出数）」と死亡数（1年間の死亡数）の合算値を、1年前の人口で割った比率
※住民基本台帳では1歳階級ごとの転入超過数と死亡数を個別に集計していないため、両者を合算して使用
- ② 計算方法：1歳階級ごとに、「基準日の人口－1年前の人口」を基準日の人口で割る。
- ③ 仮定値：直近10年間の平均値が今後も継続すると仮定

※2 子ども女性比

- ① 指標定義：20～44歳女性人口に対する0歳人口の比率
（「合計特殊出生率」は広く知られた指標だが、当該指標の計算に必要な「母親の年齢別出生数」が行政区ごとに集計されていないため、「子ども女性比」を代用）
- ② 仮定値：最新（2022年）の合計特殊出生率（1.25）は2022年1月～12月の出生数と、2022年9月末時点の人口を基に算出している。2022年9月末時点の子ども女性比は「0.046」であり、今後も継続すると仮定して、推計に用いている。
（新型コロナウイルスの影響から、2020年～2022年頃まで男女の出会いの機会の減少といった外的要因が生じたと想定される。しかし、2022年の出生数は、そうした影響が本格的に現れる前の状況であると考えられるため、将来推計の根拠として使用）

※3 出生性比

- ① 指標定義：男児と女児の出生割合
- ② 仮定値：直近10年間（2014年9月末～2024年6月末）の平均値が今後も継続すると仮定

5 その他

本推計は小規模な単位で計算しているため、各年齢層の人口規模が小さく、自然増減や社会増減のわずかな変動が推計結果に大きな影響を及ぼす。そのため、本推計結果には一定の不確実性が伴う点に留意する必要がある。